

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（9月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、9月8日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷しているものの、持ち直しの動きが広がっている」として、前月までの表現を据え置きました。昨年12月からこの表現をしておりますので10カ月連続です。判断を据え置いたからと言って、経済活動が停滞しているわけではなく、これまで同様、持ち直しの動きがじわじわと広がりをもって展開しています。各最終需要項目の判断にも基本的な変更はありません。

当月の特徴点です。

1. オホーツク漁業の好調が続いています。金額ベースでは今年の2月より連続して大幅に増加しているほか、数量ベースでもこのところ大幅に増加しています。
2. 旭川市における非居住用建築確認申請床面積が前月に引き続き大幅に増加しました。設備投資の一つの指標として捉えていますので、心強いサインだと思っています。
3. 旭川空港利用客数が増えています。台湾、中国、韓国からの国際チャーター便を利用した来訪者が増加しています。

北海道では農作物の収穫の季節になってきました。今年は、猛暑の影響も懸念されますが、平年に比べれば全体的に早めの収穫になりそうです。近隣のそば畑では早くも新そばの収穫が始まりました。幌加内町の蕎麦の作付面積・生産量は日本一です。上川地域では圧倒的に水稻が多いのですが、この地域は知る人ぞ知る蕎麦の産地でもあります。先週末に行われた「幌加内町新そば祭り」には全国各地から多くの蕎麦ファンが集まりました。品質のよい、風味豊かな幌加内そば、江丹別（旭川市）そばも是非ご賞味あれ。

平成22年9月8日

尾家 啓之